

行動力、根性、笑顔： エネルギーの源は大阪人パワーです。

世界1700万人が観た「ウィキッド」の大坂公演を今秋予定している劇団四季。現在は大阪と京都に専用劇場があり、大阪四季劇場では「55steps ソング&ダンス」が公演中。京都劇場では数あるレパートリーのなかでも、とくに人気の高い「美女と野獣」がロングラン公演中だ。主役のベル役のひとり进行する木村花代さんは、ミュージカルには、大阪・関西人のパワフルな気質が合っていると語る。

中学生で演劇に目覚める

---いつ頃から舞台女優の道を歩もうと考えられたのですか。

中学の時に演劇部に入り、そこで舞台の楽しさを知りました。この道を進みたいとお稽古を始めたのが高校2年生くらいからでしょうか。ちょうど3年の夏に劇団四季の関西オーディションがあり受験したのが始まりです。卒業後1年間、地元、守口市の松下



電工さんでお世話になりながらレッスンを重ね、晴れて35期生として入団が決まりました。

---それからは次々と重要な役に抜擢されて…

いえいえ、端から見るとトントン拍子のように見えるらしいのですが、劇団内のオーディションを受けて落ち続けた役もあります。幸運に役をもらっても毎回それを乗り越えるのに必死です。初めの頃は悩んで母に泣きながら電話したこともありましたが、大阪に帰ろうとは思いませんでした。それは自分に負けるということですから。最近では、任された役に自分なりに納得するまで取り組みますが、気負い過ぎずに、いいプレッシャーとして受け止めていきたいと思っています。

関西弁の心地よさ

---ご活躍と歩みを合わせるように関西にも常設の劇場ができましたね。

大阪、京都に劇場ができて、私の同級生を含め、関西のお客様にたくさん観ていただけるようになり、うれしいですね。関西公演の休演日には実家に帰って家族と過ごしますし、この前も同窓会をしました。やはり、私にとって大阪は落ち着く場所です。何よりも大阪の言葉が飛び交う中にいるのが居心地がいいし、関西弁で喋ると心が開放される気がします。

---木村さんにとって大阪はどんな存在でしょうか。

帰ってくるたびに元気をもらえる町です。このパワフルさを失わずにいてほしい。いつも活気ある町でいてほしいですね。大阪の人たちは行動力、根性、笑顔が飛び抜けています。劇団内でも関西出身の先輩から関西人根性で頑張れ、と励まされましたし、私自身、関西で培われたパワーがあったからこそここまでやってこれたんだな、とつくづく思います。関西の方はざっくばらんで、おおらかですが、内に秘めた芯は強いですね。

一瞬一瞬をていねいに生きていきたい

---木村さんの活躍を見て、関西から舞台人をめざす人たちもいると思います。

私もずっと、どこにいてもやればできると思ってきました。自分がほんとうにやりたいことは何なのかを見極めて、諦めなければ道は拓けてくると、今も信じています。「美女と野獣」のベルではないですが、強く信じれば願いは叶う、と思っています。

---これからの夢は？

これまででは、たとえばオペラ座の怪人のクリスティーンがやりたいとか、新しい役に取り組んで、がむしゃらに頑張ってきた道のりでした。いろんな役をやらせていただいた今、芝居や歌をもっと深めていきたいと思っています。これからの人生も一瞬一瞬をていねいに生きるというか、噛みしめて生きていきたいですね。歩く速度をゆるめて、リラックスしながら視野を広げ、素敵な俳優になれたらいいというのが夢ですね。

木村花代(きむらはなよ)さん

1997年、劇団四季研究所に入所し、「美女と野獣」で初舞台。翌年、「エルリックコスモスの239時間」の主役・エルコスに抜擢される。以来、「マンマ・ミーア! (ソフィ役)」、「オペラ座の怪人 (クリスティーン役)」など、数多くの主役で活躍。